# 2025 年度　第３回森と水の源流館　授業づくりセミナー　概要報告

奈良教育大学　中澤　静男

◇開催日時　　2025 年８月２日（土）10 時～12 時

◇開催方法　　ＺＯＯＭによるオンラインセミナー

◇参加者　　加藤（川上村水源地課）、島（福岡市立七隈小）、橋本（福岡市立三宅小学校）、
吉田（奈良県立磯城野高）、新宮（奈良女子高等学校）
土田（滋賀県庁）、上野（GDI）
森と水の源流館：尾上・古山・木村・上西・高田
奈良教育大学：及川・河野・中澤、東（院生）

◇内容

「未来を支える食糧生産（水産業のさかんな地域）」　福岡市立七隈小学校　島俊彦氏の報告

導入：スーパーの魚調べ

中心発問：どこから、どんな魚が売られているのか？養殖魚・天然魚などについての調査活動

調べ学習：①とる漁業（沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業）
②育てる漁業（養殖）
③輸送・加工
④我が国の水産業の現状や課題　漁獲量の低下、消費量の低下

→　ベンナーズの取組紹介　　未利用後を用いたフィシュルの開発・販売

深める発問：井口さんはなぜ未利用魚を使って商品開発しているのだろうか？
井口さんへのインタビュー　「作り手よし」「使い手よし」「社会よし」

発展させる発問：これからの水産業に必要なことは何だろう？

→　持続可能な水産業の実現に関心を持つ人を増やす。まずは保護者から

◇意見交流

①魚種への着目

漁獲量の減少だけでなく、魚種も変化している。福岡湾のブリ、網走でシイラ

→　気候変動の学習への展開も

②魚種変化への対応

福岡市立学校の給食に登場したギュロッピ←気候変動への適応として捉えることができる

③GT との連携について

新聞のコラム欄に海の環境を守る取り組みが紹介されていたのを見て、連絡を取った

④フィシェルに関する問題

流通・直販・漁家・漁業権など、これまでの取組との軋轢はないか

フィシェルは新しい可能性なのか

⑤連携企業について

ゼブラ企業に着目し、連携先を探す

（社会的課題の解決と経済的価値の創出を両立させる新しいタイプの企業であり、特に地域課題に取り組むことを重視している企業）←中小企業庁の HP 参照

⑥地方創生 2.0 基本構想（令和 7 年 6 月 13 日閣議決定）

教材選択の方向性を「地方創生 2.0 基本構想」を参考に探る

・地方での人口減少と東京圏への一極集中

・「若者や女性にも選ばれる」地域を目指す

・人口規模が減少することを前向きに捉え、人口規模が縮小しても経済成長し、地方を元気にする

⑦教科から総合的な学習に展開することを念頭に置く